令和元年度

事　業　報　告　書

一般財団法人日用金属製品検査センター

令和元年度事業報告書

一般財団法人　日用金属製品検査センター

１．　事業概況報告

令和元年度は、収益の改善を図り、単年度の事業ベースで収支がプラスに回復した。そこに燕市からの新規事業補助を受けてプラスの決算となる。

受託業務としては、従来に引き続き一般消費者の安全・安心を確保するため製造業者、輸入業者、販売業者などを対象に、試験・検査業務を実施した。

ＳＧ検査については、一昨年度より進めている一酸化炭素に関してのＳＧ導入については今年度夏からとなる。

平成３０年１２月より試験・検査機関の商品パッケージへの表記制度を開始したが、さらに制度の普及を促進するために、登録手数料を無償化した。

なお、今年度ホームページの改定を含めＰＲを推進したことによる、新規受託先が１０社増加しており、受託の落ち込み傾向もそろそろ底かと見られる。

品質方針として「常に安全性向上を心がけ、関連規格・基準などに則り、または準じて、適時・的確な日用金属製品の試験・検査結果を提供する」を継続して掲げ、業務管理マニュアルとして ISO9001:2015 に則るとともに法令を遵守して試験･検査サービスを実施する。

令和元年度の収支は助成金５，０００千円を含めて、事業受託計画７９，８０９千円に対して受託実績が８３，０３３千円（達成率１０４．１％）であり、収支決算ではプラス７，１３５千円であった。

２．個別事業

令和元年度の依頼検査・試験実績を表１に示す。

表１　令和元年度依頼検査・試験の実績（単位：千円）

項目＼年度			令和元年度事業計画（A）（千円）	令和元年度実績（B）（千円）	平成３０年度実績（C）（千円）	計画達成率（%）(B)／(A)	対前年度比（%）(B)／(C)
依頼検査	ＳＧマークロット認証製品検査	燕	18,000	(1,066) 21,469	(1,343) 14,947	119.3	(79.4) 143.6
		大阪	4,000	(264) 3,633	(364) 3,469	90.8	(72.5) 104.7
		（小計）	22,000	(1,330) 25,102	(1,648) 19,857	114.1	(80.7) 126.4
	SG・PSC 型式認証（工場認定・試買）		1,300	(23) 1,700	(11) 1,227	130.8	(209.1) 138.5
	SG・PSC ロット認証（IH・缶切等７品）		3,900	(56) 2,300	(112) 3,841	59.0	(50.0) 59.9
	店舗・販売商品店舗点検	燕	0	(0) 0	(0) 0	100.0	(100.0) 100.0
		大阪	1,000	(18) 1,014	(18) 1,001	101.4	(100.0) 101.3
		（小計）	1,000	(18) 1,014	(18) 1,001	101.4	(100.0) 101.3
	出張料		800	(420) 685	(470) 777	85.6	(89.4) 88.2
	小計		29,000	(1,847) 30,801	(2,318) 25,262	106.2	(79.7) 121.9
依頼検査	一般性能関係		39,000	(1,961) 37,509	(1,958) 38,194	96.2	(100.2) 98.2
	化学分析	燕	2,200	(212) 4,137	(129) 2,286	188.0	(164.3) 181.0
		大阪	1,800	(68) 1,536	(56) 1,628	85.3	(121.4) 94.3
		（小計）	4,000	(280) 5,673	(185) 3,914	141.8	(151.4) 144.9
	クレーム関係		1,700	(74) 2,199	(76) 1,938	129.4	(97.4) 113.5
	運送料		800	(601) 764	(583) 736	95.5	(103.1) 103.8
	小計		45,500	(2,915) 46,145	(2,787) 46,812	101.4	(104.6) 98.6
表記制度			300	(0) 0	(2) 40	― ―	― ―
助成金、雑収入			5,000	6,087	0	― ―	― ―
合計			79,800	(4,762) 83,033	(5,122) 70,084	104.1	(93.0) 118.5(109.8)

（　　）内は受託件数。合計の（　　）内は実受託分前年比。

（1） 依頼検査

イ． ＳＧ･ＰＳＣマークロット認証検査

安全・安心の製品の普及のため一般財団法人製品安全協会が実施しているＳＧ・ＰＳＣマーク認証事業の一環として行う重要な製品検査であり、製品の製造及び出荷のロット毎に抜き取りによって製品を確認するものであり、前年度比の金額では 126.4%、件数では 80.7%となった。

ロ． SG・PSC マーク型式認証検査

同じく SG・PSC マーク認証事業の一環で、工場登録を受けた製品に対して初回及び３年もしくは５年毎に実施する性能検査であり、前年度比の金額では 138.5%、件数では 209.1%となった

ハ． SG・PSC マークロット認証特殊検査

同じく SG・PSC マーク認証事業の一環で、ロット認証製品の初回及び６か月毎に実施する性能検査であり、前年度比の金額では 59.9%、件数では 50.0%となった。

ニ． 店舗販売商品点検検査

同じく SG・PSC マーク認証事業の一環で、一般財団法人製品安全協会から委託を受けて SG・PSC マーク商品の店舗販売品について試買検査を行うもので、燕本部で実施した。

また、店舗販売の日用金属製品全般について、販売店から依頼を受けて店頭検査・検品等の品質検査を実施するもので、大阪事業所で実施したものであり、前年度比の金額では 101.3%、件数では 100.0%となった。

（2）依頼試験

イ．一般性能試験

依頼の多い試験項目は、耐荷重・引っ張り、取っ手の強度、耐食性、耐摩耗性等であり、他にガラス熱衝撃試験、材料硬さ、鍋ツマミトルク、鍋容量計測、魔法瓶の保冷・温効力試験、塗膜の硬さ、合成樹脂の材質判別、蛍光Ｘ線分析、異物の分析など多岐にわたるもので、前年度比の金額では 98.2%、件数では 100.2%となった。

ロ．化学分析試験

ホルムアルデヒド、カドミ、鉛、アンチモン、重金属、過マンガン酸カリ、蒸発残留物、フェノール、亜鉛などの溶出･分析試験（食品衛生試験）等を、外部委託を含めて実施したものであり、前年度比の金額では 144.9%、件数では 151.4%となった。

ハ．表記制度

今年度後半に新規事業として開始したもので、試験・検査で一定レベル以上と評価したものを商品パッケージ等へ、当機関名と登録番号を表記して貰うものであり、手数料は無料とした。

ニ．製品の苦情発生原因究明（クレーム対応）

クレームの多い苦情内容については、表２に示すように特に際立った傾向は見られなくなってきた。

前年度比の金額では 113.5%、件数では 97.4%と昨年まで数年来確実に 2 割前後の減少傾向が続いていたが、今年度はほぼ横ばいとなった。

表２　令和元年度製品の種類別苦情内容と件数(　)内は平成３０年度実績

製品種類／苦情内容	鍋	フライパン	ケトル	ハンドル	金属製品類	家庭用調理器具類	合成樹脂製品類	ガラス製品類	その他	合計
サビ・変色・腐食等	(1) 5	(0) 0	(1) 3	(0) 0	(3) 5	(5) 5	(0) 0	(0) 0	(8) 2	(18) 20
異物・付着物等	(0) 1	(1) 0	(1) 1	(0) 0	(2) 1	(3) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(7) 3
塗膜・剥離等	(4) 1	(4) 5	(0) 0	(0) 0	(2) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(10) 7
異臭等	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1
破損等	(0) 0	(0) 3	(1) 2	(5) 11	(1) 0	(4) 2	(2) 1	(3) 1	(8) 2	(24) 22
その他	(7) 11	(4) 2	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(5) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 6	(16) 21
合　計	(12) 18	(9) 10	(3) 7	(5) 11	(8) 8	(18) 8	(2) 1	(3) 1	(16) 10	(76) 74

（３）その他

令和元年度末時点の主要設備を表３に示す。

表３　主要設備

主　要　設　備　名	仕　様・用　途	備　考
エネルギー分散型 蛍光Ｘ線分析装置	（株）島津製作所　ＥＤＸ－８０００	平成２８年６月
プラズマ発光分光分析装置(ICP)	（株）島津製作所　ＩＣＰＳ－７０００　Ver.2	平成１６年３月
カーボンアナライザー	（株）堀場製作所　ＥＭＩＡ－２２１Ｖ	平成１５年３月
引張試験機	（株）島津製作所　ＡＧ－Ｉ　５０kN	平成１４年１０月
赤外分光分析装置	（株）島津製作所　ＦＴＩＲ－８４００	平成１７年３月
ハイスコープアドバンスト (ﾏｲｸﾛｽｺｰﾌﾟ)	（株）ハイロックス　ＫＨ－３０００	平成１７年３月
	（株）ハイロックス　ＫＨ－１３００	平成２４年４月

・現在、ＩＣＰについては年間の衛生試験受託量と装置稼働のコストの点から、外部委託で対応のため更新の予定は無い。

・当面の更新の必要性が出てくるのは赤外分光分析装置（３５０万円程度）であるが、まだ数年は大丈夫な状態である。

・当面の必要な設備としては、電話機の主装置・電話機（１５０万円程度）が１０年超で、不具合が出てきたら交換が必要。

・引張万能試験機令和２年３月に不調整備、数年程度で不具合が出たらリフレッシュ（３００～４００万円程度）もしくは買い替え（８００万円程度）が必要。

３．役職員の状況

イ．役員（理事、監事、顧問）

令和元年度末の状況は表４のとおりである。

表４　役員名簿

役　員	氏　名	勤務形態	担当職務・現職
理事長	小島　陽	非常勤	（一財）日用金属製品検査センター　理事長
専務理事	小林　武夫	常勤	（一財）日用金属製品検査センター 専務理事、事務局長、庶務・経理部長
理事	塩浦　時宗	非常勤	塩浦技術士事務所　所長
監事	山崎　悦次	非常勤	山崎金属工業株式会社　代表取締役社長
監事	小林　貞夫	非常勤	日本金属洋食器工業組合　理事長

ロ．役職員の事務所配置

令和元年度末の役職員配置は表５の通りである。

表５　役職員の事務所配置（理事長除く）

区　別	性　別	燕事務所	大阪事務所	計
常勤理事	男	1	0	1
職員	男	5	1	6
	女	5	0	5
計		１１	1	１２

ハ．会議及び開催回数などについて

・理事会：令和元年５月中旬電子理事会、令和元年６月１日決算理事会、令和２年３月２３日予算理事会の３回実施した。

・評議員会：令和元年６月１日決算委員会、令和２年３月２３日予算委員会の２回実施した。

・月例運営会議：マネジメントレビューとして位置づけ：各月の業務の進捗成果及びセンターの運営についての検討会議で、実施件数、収入や依頼者苦情、不適合の有無状況、その他の議題について会議を行った。大阪事業所とはLINE通話とし会議の内容は議事録を大阪事業所へメールで送付した。職員へは回覧した。

・業務推進会議：毎週月曜日の午前９時から、燕本部の全職員により申し送り、予定の確認及び協議を実施し、議事録を回覧、また理事長及び大阪事業所へメールで送付した。

以　上